

30E13-am06

薬学共用試験 OSCEにおける時間管理の効率化－ 3 －

○大高 泰靖¹, 武田 光志¹, 齋藤 彌¹, 澁川 明正¹(¹千葉科学大薬)

【目的】 薬学共用試験 客観的臨床能力試験(OSCE)において実施される計量調剤(散剤)などの実務試験では、受験学生への公平性等の観点から、「課題を読む」時間、「課題を行う」時間が決められており、正確に実施する必要がある。また、本試験では、6つの課題項目があり、それらの項目間で「課題を読む」時間の長さが異なるため、全会場同時の一斉放送を利用できない。従って、個別に時間管理をする必要があり人手を有する。

そこで本大学では、各会場の時間管理を正確に行うために、時間管理用プログラムを作製し、OSCE トライアル、学内実習試験などで利用した。4年間の使用により問題が生じなかったことから、本プログラムを広く使用して頂くため、無償公開を行う(Win7 対応)。

【実施方法】 放送を実施する各部屋に本プログラムをインストールしたコンピューター(インターネット環境を有する)を用意し、放送用スピーカーを通して案内放送を行った。

【結果と考察】 本学における OSCE の実施状況とプログラムの使用環境について報告する。

プログラムの特徴は、①指定された時刻に放送を流す。②同時に20会場まで遠隔管理することができる。③放送内容を随時変更可能である。④PC ディスプレイには、放送までの時間を表示する。⑤トラブルが生じた際の一時中断放送(全部屋)、及び再開放送が可能である。

